

平成21年流山市教育委員会議第12回定例会会議録

- 1 日 時 平成21年12月25日(金)  
開会 午後 1時30分  
閉会 午後 3時00分
- 2 場 所 流山市役所委員会室
- 3 出席委員 委 員 長 松浦 尚二  
委員長職務代理者 奈良 文雄  
委 員 辻 孝  
委 員 加藤 和代  
教 育 長 鈴木 昭夫
- 4 傍聴者 なし
- 5 出席職員 学校教育部長 渡邊 哲也  
学校教育部次長兼教育総務課長 高橋 茂男  
学校教育課長 田村 正人  
指導課長補佐 田嶋 久美子  
生涯学習部長 海老原 廣雄  
生涯学習部次長兼生涯学習課長 友金 肇  
公民館長 直井 英樹  
図書・博物館長 川根 正教
- 6 事務局職員 教育総務課庶務係長 矢口 雅章  
教育総務課施設係長 武田 淳  
教育総務課庶務係副主査 新倉 英之
- 7 議案等  
議案第51号 流山子ども専用いじめホットライン相談員の委嘱について  
報告第13号 安全・安心な学校づくり交付金に係る施設整備計画の事後評価につい  
て
- 8 議事の内容

(開会 午後1時30分)

委員長

ただ今から、平成21年流山市教育委員会議第12回定例会を開会いたします。まず、平成21年流山市教育委員会議第11回定例会の会議録をお配りしておりますが、御意見、御指摘がございますか。

(特になし との声あり)

委員長

特になしということでしたので、承認ということにいたします。それでは、教育長報告をお願いします。

教育長

みなさんこんにちは。早いもので今年最後の会議となりました。本日も忙しい中ありがとうございます。

5月から流行し始めた新型インフルエンザですが、流山の場合には9月から大流行となり、現在も続いております。これまでに罹った子どもたちは3割ぐらいなのですが、一部の小学校では4割を超えているという状況です。子どもが次々と感染していくということで、この新型インフルエンザが9月から12月までの間の様々な活動に大きな影響を与えました。23校中4校が学校閉鎖し、小中学校それぞれ2校です。また、学年閉鎖は11校11学年です。学級閉鎖等は大変多い状況です。

その中で、各学校では行事をかなり縮小せざるを得なかったということがありました。運動関係の行事については中止を含めて2日間かけて実施するものを1日に短縮したりしたものもあります。それから、学校全体の集まりの場がなかなかとれなくて、校内放送を使って実施した学校もありました。

私どもも学校を回って授業参観等をさせてもらったのですが、全員がマスクをして授業をやっているという独特な雰囲気でした。先生もマスクをしていて話が聞き取りにくいようなこともありました。

それから、全市レベルの行事も影響を受けました。特に二日間かけて開催する音楽発表会ができませんでしたし、子どもの体力向上を奨励する目的で行っているヘルスバレーボール大会や小学校のミニバスケットボール大会も中止になりました。よって、それぞれの学校では近隣の地区と学校との交流会をしたりして補ったという状況です。

それから授業時数の確保については、1学期には夏休みに何日間か開いてやった学校があります。2学期になってからは土日はいろいろな活動が入っているものですから、平日の中で授業を後ろに加えるというような方法でカバーした学校が多く、冬休み中に授業をする学校はありません。ただ、終業式や始業

式の日には授業をやっているという学校はあります。長期の休みはできる限り確保するという方向でどこの学校も進めたということですが、今後も流行が続くという状況であれば、やはり授業時数の確保というのは課題として残るという状況にあります。

次に、9月から12月までであった活動の中の行事（会議）を取り上げさせていただきます。

まず、安心安全の会議を開催しております。これは数年前に栃木県の今市で小学生が下校中に連れさらわれて茨城県で遺体で発見されたという事件があったことから、本市でも地域ぐるみで子どもを見ていこうという機運が高まったため声をかけさせていただいたところ、当初、一部の学校で始まった地域ボランティアの方々の活動が、市内全地区に広がっていったものです。周辺部だけでなく住宅街においても心配はあるということで、現在行われている状況です。その際、「子ども安心安全大作戦会議」という名称にしました。これは年に2回開いております。今回は12月に開催されたのですが、皆さん見かけられるかと思いますが、“おおたか”をあしらった黄色いチョッキを着て街道で活動して下さっている人がいます。これが何千着か出ているのですが、要望に応じて市の方でチョッキを用意をお願いしているという状況です。子どもの安全関係をめぐっての団体はたくさんありますが、ばらばらの活動を整理して効果的に行えないかということも含めて、この会議の中にはそれぞれの団体の代表の方に入ってください、機能していると思っております。この会議が今月になって行われました。流山の場合は不審者が出没するということが報告されています。この会議には警察の方も入っていますが、連携を密にして注意深くという気持ちを作っていくように進めているところです。この中で課題として出てきたことは、事件は忘れたころにやってくるのだから、どうやって継続できる体制作りをするか、ということでした。例えば防災行政無線をとおして一定の時間になると「市民の皆様で子どもたちを見守りましょう」というような声かけをしております。ただし、市民の中にもいろいろな御意見がありますので、現在は毎日ではなく、週に何回か流しております。いずれにしても、忘れたころにやってくるという状況がありますので、皆さんでもう1回確認していこうということで、それぞれの団体の人が各所で声をかけると思いますが、どうか注意して見ていただければと思います。

昨今、各種の団体の会合に出たときに思いますのは、団体の方々は、自分たちが一生懸命やっているという誇りや気概をお持ちなのです。ところが、他人がやっている活動については意外と関心がない。他の団体の活動については知

らないということが多いです。改善したいことです。

次に、以前にも少しお話ししました、山形県の朝日町とのリンゴ交流が今年で4年目になります。これは、すべての学校ということではなく、同じ学校が5年間連続でやれるようにという朝日町側の希望で組み立てたものです。流山では江戸川台小学校と西初石小学校が5年間これに関わりますが、リンゴを頂く代わりにリンゴを通しての授業をやるということです。朝日町としては町と町との交流に発展してくれたらいいという希望があります。流山としては、本場のリンゴづくりの努力といったものを通して本物の味を子どものうちから身に付ける。それを5年間やって検証しなければならない。これは大変難しいことですが、輪が広がっていることだけは事実です。子どものみならず家庭もそういったものに興味を持ち始めたとか、教員の交流も始まったところです。12月の初めにも朝日町の町長さんをはじめ6名の方が二つの小学校に来られました。御存じのように流山の場合は4つの市町と姉妹都市や友好都市の協定を結んでおります。姉妹都市の方がより深い関わりになるのですが、姉妹都市は相馬市と信濃町、友好都市は能登町と北上市です。今日も午前中に信濃町の方が4人で来られて、何らかの交流をしたいという希望を市長に話されてお帰りになりました。それぞれ交流の歴史がありますが、現在比較的交流の多いのは相馬市だと思います。あとの3都市は全体的に少ない。ここ数年の間に広げてきたのは、信濃町と能登町です。北上市は、かつて中学生がリンゴの花の咲くころに訪れて農園で体験をするということで、バスで行った時代があったのですが、これは10年ほど前になりました。友好都市なのだから交流したいという声かけがありまして、流山としては今回学校給食の中でリンゴを一回取り入れてみるということで、一部の調理場でそれを始めまして、きっかけを作ってみたところです。今後、市民にも声かけをしてまいりたいと思っております。

次に、市議会の定例会が昨日で終了いたしました。国においては「コンクリートから人へ」という方向性が出ている中で、教育というものは当然重視される方向になっていると思いますが、長年学校図書館の司書は、普通の教員が授業を持ちながら司書として活動しているということで、常時図書室にいる状況ではありません。また、学校も現在のかかなり刻まれた時間の中では図書室を使うということはなかなか難しい状況にありますので、その中で工夫してやっておりまして、特に図書館の司書を流山として自前で配置するという事は行っていないのですが、近隣を見ますと、拠点校に置くとか、かなりの数を自前で

配置しているところもあります。もちろん、人件費はそれ以外のところにもかかりますので、たくさんの要望がある中で、特色ある活動として何を配置していったらいいのかということをして市の身の丈を考えながら、特色ある教育を打ち出すという方向で人件費をいくつか確保しており、流山市は数年前からこの近隣の中でも特色のある教育にいち早く取り組んだ方だと思っております。ただ、最近は周りの市が追いつき追い越すという状況もあります。今後も、市の状況を良く考えた上でそれらの活動は、皆さんに声かけして、御支援していただければと思っております。現在、学校図書館は協働のボランティアの人たちに取り組んでいただいております。中には1校で40人から50人も登録し、活動してくれている学校もありまして、本当にありがたいです。

次に、星野富弘展が11月26日から12月23日まで延べ28日間、生涯学習センターで開催されました。今回初めて取り組んだことは、有料にしたことと流山市と市民による協働の活動で取り組んだということです。よって8人の市民の実行委員の方と、応募してくれたボランティア約250名プラス教育委員会を中心とした市職員が取り組んだことによって、非常にうまくできたと思っております。指定管理者の方のお骨折りも大変素晴らしかったです。その結果、入場者は12,484名ということになりました。教育委員会の中でも一つの担当部署だけでなく、公民館等いろいろな部署が連携した取組をしてくれたということは、市民の方もよく見ていますし、よくありがちなどこか任せということではなく、しっかりとできたことは一つの進歩であったと思います。

次に、議会と並行して部長、課長が非常に苦勞していた点は、来年度の予算編成の作業です。ここにきて、ほぼ原案が固まってきたところですが、正月明けに復活折衝があります。教育委員会としては、特色ある取組をやっていくに当たってそれぞれのところで動く方々が誇りを持って取り組んでいけるような取組に頑張ってみたいと思っております。市としても、協働という一つの流れにあることは事実ではあります。学校の方も様々な制度改革が行われておりますが、今は小中を一貫とはいかなくとも連携になるようなものと、それから地域支援の活動が一つの時代の流れなのではないかと思っておりますので、この辺についての予算は僅かでも皆が元気が出るように努めてまいります。

私からは、以上です。

ありがとうございました。ただ今の教育長報告につきまして質疑等ございませんでしょうか。

特色ある教育というところが非常に重要であると私も感じたのですが、今後

委員長

委員

の特色ある教育に対する方針の策定とかビジョン化という手続については、基本的にどのように行っていこうとお考えでしょうか。

学校教育部長

今学校の現状を見たときに一番大事なことは、心を開いた教育をどう行うかということだと思います。これはもともと流山の場合には「真心」を中心にしてやっているのですが、具体的には情操についての教育を更に進めていきたいと考えております。学校で、その情操教育を進めるに当たってどんなことで具現化しようかということになった場合には、例えば良い映画を観せてあげるとか、良い講話を聞かせてあげるとか、あるいは身近に講師を呼んで子どもたちとともに活動するとか等いろいろな方策が出てくるだろうと思います。そのあたりを中心として、今後10年間の中でどう進めていくかということを探求していきたいと思っております。さらに、学校では校長を中心として学校でプログラムを立てていくのですが、学校としてどのようなものやっていくのか、このあたりの計画を教育委員会と練り合わせながら進めていくというようなことで考えております。

委員

中長期ビジョンにおける心の教育というのは、流山が非常に大事にしようという方針で据えている大きい問題だと思うのですが、先ほど言われたように実践をしていくに当たって、どのように順序立ててやっていくとか、それをどのように具現化するかというところは非常に大事だと思いますので、そのあたりが明確になって将来の方向性がよりクリアになる方針ができることより良いのではないかと思います。

学校教育部長

今のところ各学校で実践しておりますのは、ピュア教育であったり、ビオトープをやってみたりですとか、かなりいろいろなことが実施されてきました。それをどうやって学校でも東ねていくか、その東ねていくことに対して教育委員会はどのような支援をしたらいいのかというようなことが、これからの子どもたちの教育の核になるのだと思います。

委員長

そのほかにございますか。

委員

先日、流山市子どもの読書推進会がありまして、第4回の音読発表会を聞かせていただきました。最初はなかなか人数が集まらなかったということでしたが、すごくたくさんの方がいらっしゃって、だんだん発展しているなという気がいたしました。しかし、少し感じましたのは、声を大きく出すのは結構なことなのですが、例えば論語であるとか、徒然草などを発表されているのですが、

果たして子どもたちがその内容について分かるのかなという気がしたのと、音読なので暗記をして発表するだけではなくて、教科書を読んでも構わないという形ですが、本当に書いてある文字が心に訴えられるか、状況が聞いておられる方に伝わるのかということ、そのあたりが気になりました。ただ声だけが大きくて暗記していたものを発表するというで終わっているような気がしました。文章にある背景や状況が子どもたちから伝わってほしいと思いながら聞かせていただきました。それと今までにないダンス（ラップ）を入れたりした発表があったりして、かなり工夫されているなという気がしました。

今の委員の感想に対して御意見等ございましたらお願いいたします。

委員長

普段、学校では声を出すことと独特のリズムとか音を感じながら子どもたちが一生懸命やっているところです。委員のお話にありましたように、6年生とか学年が上がるにしたがって作品の内容やその背景にある時代等を少し感じながら進めていくともっと良いものができてくると思いますので、学校にも伝えたいと思います。

指導課長補佐

ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

委員長

特色ある教育や流山らしい教育を推進していくための予算化等のお話がありました。これは教育委員会だけの問題ではないの思うのです。教育委員会を取り巻く環境という意味では、学校教育及び子育て支援というものをもっと今以上に連携して考えることはできないかと思えます。それぞれ部署は違うのかと思えますが、最近の教育環境を取り巻く問題の中で子育て支援をどうしていくかということがメディアでもよく取り上げられております。その中で流山が子育て支援を充実させつつ小学校教育を推進していくという一つの新たな枠組みと申しますか、もっと福祉と教育というものが連携して、教育委員会のようなところも積極的に関わっていくという考え方があってもいいのではないかと思うのですが、そのあたりについてはどのようにお考えでしょうか。

委員

委員の御指摘のとおりで、この連携の部分については特に直近で話題になったことは食育がきっかけだったと思えます。小さい頃の食生活をどのようにしていくかということが、国から出てきたときに教育委員会で考えたり福祉部門で考えたりしました。食に対する教育というのは小学校に入ってからでは若干遅いので、母子になったときからどのようにやっていくのかというその連携を考えていこうということで、親に対する教育も子育てというふうなことで非常

学校教育部長

委員

に大事なことである。流山市は保育ステーション等いろいろなことをやっておりますが、実際に親御さんたちが子どもを育てていく気持ちを大事にしていく、産んだら終わりではなく、また社会が育てるというものでもなくて、社会も育てるし、親御さんも育てる。ですから学校では授業参観の時に言うておくというようなことを常に忘れないでやっていく。また、特に連携という意味では学童保育とか、保育所と幼稚園と小学校、特に低学年との幼保小の連携とか、そういうふうなことで実践しております。ですからその部分が更にどのように連携していくことが親御さんを巻き込んだ、地域を巻き込んだ教育を進めていく連携を模索しているのが現状です。

公民館長

私どもは、これまで学校開放講座といいますと東京理科大学や江戸川大学にお世話になったり等、大学開放講座、高校開放講座というものが主なものだったのですが、今予定しておりますのが幼稚園と組んで幼稚園開放講座のようなもの、まさに食育とかそういったものを幼稚園の先生方と一緒にお母さんお父さんを集めて行うという計画を進めていたり、今月でいうとNHKの「にほんごであそぼ」にレギュラー出演されているおおたか静流さんをお招きして各保育園にお手紙を差し上げて、お子さんが泣いても踊っても授乳中でもおむつを替えてもいいようなコンサートをやって、お父さんもお子さんも喜んでもらおうということをしていただいたりとか、そういう保育園とか幼稚園と一緒にやっていく。それから、先月開催したエンゼルサポート講座というものがあるのですが、実は今は御自身の身体のことをよく分かっていないお母さんがいて、二人目の子ができないという方がすごく多いのです。二人目を産むと今のお子さんがどうなるのだろうという不安もあるのだと思い、そういう講座も必要とされてきているようなところもあって、そこまで公民館が求められているということかもしれません。つまり、何が福祉で何が教育かという区分がなくなりつつあるという時代なのだと思います。それを踏まえていろいろな事業を展開させていただいております。

教育長

例えば、教育委員会の中に幼児教育研究所というものがあります。これは私立幼稚園は管轄が教育委員会ではないので、それも全体でくるんでいこうという考え方で、教育委員会の幼児教育研究所が中心になって公立も私立も保育園も小学校もそういうものを全部ひっくるめて子育てという視点で皆で勉強しようということで、教育委員会が3年ほど前に立ち上げたものです。

それからいじめホットラインについても、子育て関係の相談や青少年の健全育成に関しての相談も含めて、福祉部門がやっているものと教育部門がやって



いるものもある。これはやはり縦割りなのです。それをまとめていくということは指導課でやっております。今は周りに呼びかけをして毎月集まって情報交換をしながら連携を図るということをやっているのです、困った問題が出てくるというのは非常に少なくなってきました。ただ、どうやって知らせるのが非常に難しいです。

委員

教育長が言われたように、やっておられる内容をいかに発信して周知していくかということと、更にその体制を具体的なものにしていくというところが非常に重要かと思えます。特に幼稚園・保育園・小学校・学童保育、これらが一体となって推進されれば実に流山らしいと思えますし、市内に在住の方も含め、これから市内に住まいを考えられる方々にとっても非常に大きい意味を持つのではないかと思いますので是非とも推進していただいて市民の皆様によく分かるような形で発信していただければと思います。

委員

先ほど、星野富弘展のことで12,000人以上の方がお見えになったということをお聞きしたのですが、その方々の反響というか、生涯学習の面での効果というものが分かれば教えていただきたいと思えます。私も初日の次の日に行きましたら非常に賑わっていました。有料なのに、皆さん興味を持っていらっしゃるのだなと思えました。それと、お金をとっていることに関して、その収支につきまして教えていただければと思います。

生涯学習課長

まず、感想についてですが、受付のところに意見を自由に書き込んでいただくノートが置いてあったのですが、そこには「感動した」という内容の感想が多かったと思えます。今回の目的の一つとしまして、小中学生の方に無料で何度でも作品に親しんでいただくということで声かけをしております、いろんな学校の方が見えておりました。それから、延べ600人のボランティアの方に御協力いただきましたが、皆さん本当に我がことのように意気揚揚とやっておられました。それからお金の収支につきましては、入場料が収入の大部分です。それに、市から助成金として100万円を支出しております。まだ詳細な収支は出ておりませんが、収支はおそらくやや黒字になるのではないかと思います。黒字が出た分については、後ほど実行委員会を開催いたしまして学校等に寄附するというを想定しております。

以前開催しました後藤純男展は無料でした。あのときは、生涯学習センターを皆に知ってもらいたいという願いがありました。今回の狙いは、もう一回生

教育長

きざまに触れて現代人が生き方を再構築してみませんかという願いで企画したものです。星野さんは非常に好意的ですが、100点もの作品をお借りしましたので、やはり何百万円はかかります。

生涯学習部長

多くの方の協力があったということを凄く感じました。その実行委員会のメンバー8人と事務局として支えてくれた指定管理者の方、それから建物の中に勤務している方、それから書物を売っていた方たちも後で各学校に還元したいというお話もありますので、星野富弘さんの魅力も当然あったのですが、600人を超えるというボランティアが一丸となってできたという、市長、教育長の強い気持ちもあります。

教育長

星野富弘展を開いてほしいという市民の要望は、かなり以前からあったはずです。非常に暖かい空気が流れたというのは良かったのではないのでしょうか。

委員

先ほど子育て支援の中の一環で、いじめホットラインの話が出ておりましたが、先日、学校でのいじめが非常に増えてきているという大々的な新聞報道がありました。流山の状況というのは分析されておられるのでしょうか。それから保育園も待機児童云々というような国の話もよく出ておりますし、また学童の方の収容状況といいますか、どうしてもこのようなご時世ですので、両親が働きに出られるということもあって、学童などは場所によってはかなり人数がオーバーしているところもあろうかと思うのですが、そういったことについては何か対応は考えておられるのでしょうか。

学校教育部長

一時期、いじめが増えたのはいじめの定義を文部科学省で明確に決めたことによるものです。その後、調査していくにつれて流山の場合は徐々に横ばいになってきました。流山の分析で一つ言えますのは、かなり時間がかかったわけですが、子どもに道徳心がついてきているのではないかと思います。これは学力状況調査等にも確実に出てきているかと思うのですが、相手の気持ちを推し量る部分が国語教育等の教科をとおして多少なりとも育ってきている一つの証なのではないかという考え方を教育委員会としては持っております。この部分については更に進めなければならない部分ですし、それからもう少し発展させますと、組織の中で子どもを育てるということが高度成長期の中で続いてきたわけですが、これからはもっと生きる力を育てるということで本来の個性ということになるのでしょうか、リーダーシップということになるのでしょうか、一人一人の中に存在しているその部分を生きる力として育てていくという

こと、全体の中で生活するのではなくて、当たり前感覚として子どもを基本的な生活レベルとして育てる。その上に立って子どもたちの一人一人の能力を伸ばすということで、いじめという件数もきっと変わっていくのではなかろうかと思っております。変わっていくというのは減っていくでもありますし、また心も強くなり、人も大事にするということです。もう一点の学童についてですが、学校では市の方針としましても空き教室を使うということを第一として子どもたちを受け入れることとしております。現実的な問題の中では、流山市は毎年子どもたちが増えてきておりますので、その空き教室だけでは足りないもので、学校の敷地あるいは敷地の外の部分でやっています。その部分でも連携をしてやっているとございますので、成り行きを暫く見ていただければと思います。学校でできる部分、子ども家庭部でできる部分それぞれできるだけ相乗り入れながら進めていきたいと思っております。

教育長

かつては学校で学童ということは、あまり賛成されないという雰囲気がありました。今は一小学校区に一学童ということで、学校に空き教室があるならばそれを利用すればいいのですが、それが無い場合には生涯学習の施設等を工面しながらやっているという状況で、新市街地だけは難しいところがあるのですが、それ以外の場所は大丈夫だと思えます。

それから、いじめというのは地域によってカウントの仕方が異なりますので、新聞発表では多い県と少ない県があるのだと思えます。ただ、いじめと暴力事件は共通するようなものがありますが、流山の場合にはここ20年の中では最も安定している時期だと思えます。学校における暴力行為等については油断はできない部分はありますが、最近の暴力行為は「なぜこの子が突然」というようなことがよく話題になります。確かにそういう傾向はあります。よって、学校では一人の先生だけが授業を見るのではなくて、動き回る子どもについて見るという学級支援員というものを全学校に配置している市町村もあるということです。流山の場合には特別支援のサポート教員を13名配置しておりますが、23校全部に配置してほしいという声もあります。暴力もあるかもしれませんが、特別支援を要する子も増えていることは事実だと思えますが、全体的には流山の場合には少ないと思っております。

委員長

それでは、以上で教育長報告に関連した質疑を終了します。これより議事に入りますが、議案第51号「流山子ども専用いじめホットライン相談員の委嘱について」は、個人に関する情報が含まれています。よって、議案第51号につきましては、流山市教育委員会会議規則第13条第1項の規定により、非公

開とし、本日の議事日程につきまして当該案件を同会議規則第10条第1項の規定により、各課等報告（4）の後に繰り下げたいと思いますが、御異議ありませんか。

（異議なし との声あり）

御異議なしと認めます。議案第51号につきましては、非公開とし、各課等報告（4）の後に審議します。それでは、議事に入ります。

委員長

報告第13号「安全・安心な学校づくり交付金に係る施設整備計画の事後評価について」を議題とします。報告理由の説明を求めます。

教育総務課長

（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律（昭和33年法律第81号）第12条第1項の規定に基づく交付金の交付について、文部科学省の要綱により施設整備計画期間の終了時にその目標の達成状況等について評価を行い、これを公表するとともに、文部科学大臣に報告することが義務付けられていることから、平成18年度から平成20年度までの施設整備計画の事後評価を行う旨を説明）

本案について質疑等ありましたらお願いします。

委員長

（特になし との声あり）

質問がないようですので、報告第13号は、原案のとおり了承することに御異議ありませんか。

委員長

（異議なし との声あり）

御異議なしと認めます。よって報告第13号は、原案のとおり了承することに決しました。

委員長

次に、各課等報告を学校教育課からお願いします。

学校給食調理業務民間委託業者の決定について

学校教育課長

次に、生涯学習課からお願いします。

委員長

1 主催事業について

生涯学習課長

（1）第20回流山市民音楽祭

- (2) 古典芸能鑑賞会「歌舞伎」
- (3) 市民ギャラリー展「書道展」
- (4) 四季の花々展「初春」
- (5) 新春豚汁とみんなで走ろう会

2 後援事業について

- (1) ヤングアメリカンズ・ジャパントア-2010 春 柏会場
- (2) 平成 22 年度麗澤オープンカレッジ(生涯学習講座・特別講演会)

次に、公民館からお願いします。

委員長

これからの事業

<公民館事業>

公民館長

- 1 初笑い新選 流山寄席
- 2 高校演劇 20分シアター in 流山
- 3 女性セミナー「明日への助走～私の老い支度」

次に、図書・博物館からお願いします。

委員長

1 主催事業について

(1) 図書館

- ア 赤ちゃんと楽しむ絵本とわらべうたの会
- イ 人形劇のつどい

(2) 博物館

博物館子ども教室「アンギンづくり」の開催について

2 後援事業について

第 26 回公開読書会

3 指定管理者の実施する事業

第 9 回森の学校 落語「森々亭(もりもりてい) 雷門花助独演会(かみなりもんはなすけどくえんかい)」

秋元由美子 水彩画展 ～花を描く～

以上の各課等報告への質疑、意見等がありましたらお願いします。

委員長

委員

調理場の委託ということですが、今まで委託していた業者とは別の業者に代わったということですね。

学校教育課長	南流山調理場に関しましても指名競争入札をしたのですが、業者は現在と同じ業者です。
委員長	ほかにございませんでしょうか。
委員	指名競争入札ということなのですが、何社指名なのかということと、応札状況について詳しく教えてください。
学校教育課長	競争入札の事務については、総務部の管財課で行っておりまして、応札業者及び入札金額についてはホームページにも公表されております。
委員長	そのほかに御質問等ございませんでしょうか。
委員	主催事業等に目的が書いてあったりなかったりしているのですが、やはり目的は知りたいと思いますのでよろしくお願いします。
生涯学習部長	次回からは、統一したいと思います。
委員長	次回からは共通の様式で御報告頂けるということですね。 それでは、各課等の報告はこれで終わりにいたします。 続きまして、先ほど非公開と決定しました議案第51号の議事に入ります。
	(傍聴人がいないため、退席者なしで審議開始)
委員長	議案第51号「流山子ども専用いじめホットライン相談員の委嘱について」 学校教育部長の説明（流山子ども専用いじめホットライン相談員の任期が、平成22年1月4日をもって満了することに伴い、新たに委嘱する旨）後、審議に入り、全員異議なく、原案どおり可決された。
委員長	以上をもって本日の教育委員会議に付議された案件の審議は、終了いたしました。それでは、次回の教育委員会議につきまして、事務局からお願いいたします。
教育総務課長	次回の教育委員会議は、1月28日（木）午後1時30分からとしたいと思いますが、いかがでしょうか。
	(次回の日程協議)

委員長

次回の教育委員会議は、1月28日（木）午後1時30分から開催すること  
といたします。以上で、平成21年流山市教育委員会議第12回定例会を終了  
します。

（閉会 午後3時00分）